

中海 エコ活動 レポート

中海の環境保全活動と
ワイズユースを紹介します

第22号
平成30年3月



ジュニアレンジャークラブの報告

○●○中海・宍道湖ラムサールシンポジウム●○



山本幸正氏の基調講演

水鳥と共生した
地域づくりを

中海・宍道湖のワイズユース（賢明な利用）を広く知ってもらうため、水鳥を主なテーマに「ラムサールシンポジウム」が平成29年12月9日に松江テルサで行われました。

活動発表では、中海自然再生協議会や、農業・観光などでコウノトリと共生したまちづくりを行っている豊岡市の取組を紹介したほか、米子水鳥公園Jrレンジャークラブのみなさんが、野生生物保護功労者表彰環境省自然環境局長賞の受賞内容を元気よく報告しました。

基調講演では、旅行会社ワイバードの山本幸正氏から、バードウォッチングで観光客を呼び込むには、地元の鳥愛好家を増やし、鳥と地域の魅力について語れるガイドを育てることも必要であることなどの話がありました。

このほか、環境・観光関係者によるパネル



パネルディスカッション

ディスカッションが行われ、約250名の参加者は熱心に耳を傾けていました。

※鳥取県・島根県主催、中海・宍道湖・大山圏域市長会、斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会共催

■お問合せ

島根県環境政策課

〒690-8501 松江市殿町1番地

電話0852-22-6445

海の恵みで野菜作り

F & Y 境港は障がいのある方約30名が働いており、作業の一つとして海藻肥料を作っています。

認定NPO法人自然再生センターが中海で刈った海藻を乾燥し粉状にし販売するとともに、農場で使用しています。利用者の適性にあわせ、肥料作りと野菜作りの工程を分担しています。

農場では、入所者と農業が専門のスタッフがほうれん草、ビーツなどを作っています。軌道に乗るまで土壌を分析したり、他の肥料や農法を組み合わせるなど試行錯誤し、出荷できる品質になり



ました。

「現代の野菜は畑のミネラル分が減り栄養分が減っているため、海藻肥料で海からのミネラルを野菜に補給できる上、窒素、リンを湖外に持ち出すので水質浄化に貢献できる」とスタッフの山田さん。今後も工夫を重ね、美味しい野菜作りを続けます。

■お問合せ

F & Y 養和会

〒684-0041 境港市中野町1928-1

電話 0859-42-1121

藻がするプロジェクト

地域と連携した活動

米子南高校家庭クラブは家庭科を履修する生徒で組織し、役員10名を中心に活動しています。地域と連携し、特産品やこれまで企業で廃棄されていた食材を有効活用し創意工夫を凝らした食品作りなどを行っています。

廃油キャンドル作りやわりばしの回収など、環境保全につながる取組にも力を入れています。

毎年中海環境フェアに出展し、平成29年はアクリルたわし作りコーナーの出展やクルージングのボランティアスタッフとしても参加したほか、中海アダ



プトプログラムに登録し、年3回活動しています。

6月の中海・宍道湖一斉清掃では、役員が部員に参加を呼びかけ、100人以上が参加しました。

参加して、中海の環境保全や利活用に地域の多くの人に関わっていることを知り、協力することにやりがいを感じた、と役員の皆さん。

今後も、校内、校外の多くの人と連携し、地域に役立つ活動を続けます。

■お問合せ

鳥取県立米子南高等学校

〒683-0033 米子市長砂町216

電話 0859-33-1641

米子南高校家庭クラブ

ゴズバーガーはいかが

ゴズとはハゼの地方名で、中海七珍の一つとしてゴズの昆布巻きなどが親しまれていました。

認定NPO法人自然再生センターでは、日々中海に親しんでもらうきっかけ作りに取りくんでいます。

今年度、自然再生センターと米子高専建築学科との共同研究の一環として、ゴズに関するイベントが行われました。

「かつてはゴズ釣りは中海のレジャーのひとつだったが、最近はあまり行かなくなっている」と上田さん。



釣り調査実施中

●●●ゴズ釣りマップ・ゴズ創作料理●●●



ゴズバーガー

中海のゴズの生息や漁獲量のデータがないため、釣具店や漁業の関係者に聞き取りしたり、ボランティアを募って実際に釣って調査したりして、「ゴズ釣りマップ」を作成しています。

試食会では、子ども向けの創作料理を中心に作りました。一番人気はゴズバーガーでした。

今後も工夫を凝らした楽しいイベントを開催します。是非ご参加ください。

■お問合せ

国立米子工業高等専門学校

建築学科運営室（上田）

〒683-8502 米子市彦名町4448

電話 0859-24-5170

ウナギが住みやすい環境作り

島根県産のウナギは、東京都中央卸売市場などにおいて高値で取り引きされる一方で、中海のウナギの漁獲量は年々減少傾向にあります。

漁業者からウナギ資源の増殖を図って欲しいとの要望もあり、中海における漁業資源の増殖を図るため、平成23年からウナギの稚魚の放流を行っています。

今年度は10月18日に中海水域の7か所で270kg、約32,400尾を放流しました。



ウナギの稚魚

○●●ウナギの資源保護事業○●●



保護礁を設置

さらに、今年度はウナギの生息環境を改善し、ウナギの稚魚の生存率の向上、放流効果の向上を図るため、中海水域の2か所において、ウナギの稚魚の生息場と餌となるエビ類等を増やす効果のある保護礁を11月下旬頃に設置しました。

今後は、保護礁を引き上げ、ウナギの稚魚の生息状況やエビ類等の分布状況を調査し、ウナギ資源の保護・増加に繋げていきます。

■お問合せ

松江市産業経済部水産振興課

〒690-8540 松江市末次町86番地

電話 0852-55-5636

秋の中海を楽しむ

ウォーキングを通じて、彦名地区を中心に中海の歴史や今の環境を知ってもらうため、「第22回彦名・水鳥ふれあい中海ウォーキング大会」が平成29年11月5日に行われ、約200名が参加しました。

晴天の中、粟嶋神社をスタートし、水鳥公園と彦名干拓地を經由してスタート地点に戻る約5.5Kmのコースを、親子連れやシニア世代のグループがそれぞれ

承水路沿いをウォーキング



彦名・水鳥ふれあい中海ウォーキング大会



クイズに挑戦

ぞれのペースで楽しみました。

コースにはクイズラリーのポイントが設けられ、中海周辺の自然に関する問題に挑戦しました。

参加者は、湖岸の美しい豊かな景色を楽しみながら、秋の中海を満喫していました。

■お問合せ

米子水鳥公園

〒680-0855 米子市彦名町新田665

電話0859-24-6139

中海に守られた城

戦国時代の終わりごろに築かれた米子城は、中海に面した城で、大小2基の天守を持つ珍しい構造でした。建物は明治時代に解体されましたが、石垣は往時の姿をよくとどめています。

城を核に中海から水を引き込んだ内堀と外堀をめぐらし、現在の深浦橋付近には軍港を配置し、中海の防衛の拠点として活用していました。

外堀の一部は現在の旧加茂川として残されており、川沿いの土蔵や石垣に当時の面影を残しています。

米子城跡と中海をドローンで撮影



「米子城主錦海舟遊之図」
鳥取藩の家老・荒尾家の船行列の様子

掛け軸「米子城主錦海舟遊之図（天保14年）」には、中海、城とその背後の大山が三位一体となった当時の風景が描かれています。

また、湊山頂上の天守台からは、大山、島根半島、美保関まで一望でき、季節や時間によって表情を変える中海を鑑賞できます。

■協力

米子市教育委員会文化課

○●○●○●○●米子城と中海

編集・発行者

鳥取県西部総合事務所

生活環境局環境・循環推進課

〒683-0054鳥取県米子市靴町一丁目160

電話 (0859)31-9322

E-mail: seibuseikatsukankyo@pref.tottori.lg.jp

Homepage: <http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=69208>

島根県環境生活部環境政策課

宍道湖・中海対策推進室

〒690-8501島根県松江市殿町1番地

電話 (0852)22-6445

E-mail:kankyo@pref.shimane.lg.jp

Homepage: http://www.pref.shimane.lg.jp/shinjiko_nakaumi/

記事募集

中海エコ活動レポートに掲載する記事、イベント情報、写真を募集しています。

詳しくは、左記連絡先に連絡していただくか、ホームページを御確認ください。